

# ちょっと気になる子 いませんか？



保育所(園)・幼稚園等の遊びや生活の中で、落ち着きなく動き回る子、注意力が散漫な子、かんしゃくをおこす子など、同じ年齢の子どもと比べて、ちょっと気になる子がいないでしょうか。

ちょっと手がかかって困った子、また、家庭のしつけに

問題があるのではないかと思っていないでしょうか。

ちょっと気になる子の中には、その子の努力や家庭のしつけが問題ではなく、中枢神経系の何らかの要因により、情報の入力や処理がうまくいかないためにそのような行動を示す子が多くいます。

次ページ以降に、保育所(園)・幼稚園等の遊びや生活の中で子どもが示す行動と考えられる要因、具体的な援助を示しました。

ちょっと気になる子の援助の際の参考にしてください。

なお、本リーフレットで示したものは、ちょっと気になる子の援助についての一部に過ぎません。裏面の情報を参考に、より詳しい援助の方法を得られるよう努めてください。

群馬県教育委員会

平成21年3月



# 集まりの時間に



名前を呼ばれても気付かない



気になるものところへ行ってしまう



一方的におしゃべりしてしまう

## こんなことで困っているかもしれません

- 聴覚や視覚など感覚刺激に敏感で、その場にいることに耐えられない。
- たくさんの音や見えるものの中から必要なものを選び出すのが難しい。
- 長い時間、注意を向け続けることが難しい。
- やりたい気持ちを抑えるのが難しい。
- どこに目や注意を向ければいいのか分かりにくい。

☆情報量を少なくし、注意を向けてほしいところをはっきり提示すると、集中しやすくなります。

### たとえば…

#### ◎集まる場所をどこにしたらよいか考える

先生の立つ位置や、子どもから見える環境を考えてみましょう。注意を向ける先がはっきりし、集中しやすくなります。



#### ◎気にしているものが何か

保育室の中で気にしているものはなにか、嫌がる音はなにか、特定の色を気にしていないかなど、マイナスの刺激になっているものを観察してみましょう。マイナスの刺激が想定されたら、その刺激を減らしたり、カットしたりしてみると居心地のよい環境になります。

#### ◎目に見える刺激を減らす

いろいろなものに興味を持ち、目移りがしてしまうことが多くあります。可能な範囲で遊具を収納したり、布で覆ったりするなどして、使うときだけ出すようにすると効果的です。



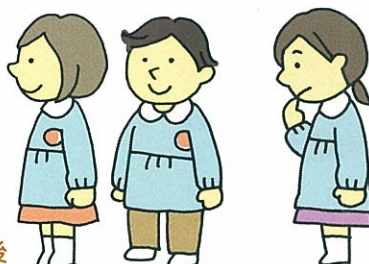
# 生 活 の 中 で



順番を待つ列に割り込んでしまう



自分の順番が  
来るまで待てない



順番がいつも最後

## こんなことで困っているかもしれません

- 自分のやりたいことが優先され、周りの状況や友達の動きが見えない。
- 生活のルールがよくわからないため、自分のルールで行動したり、集団から外れたりしている。
- 一番後ろがどこか、誰がどのように並んでいるか分からず、並ぶ場所を探すことが難しい。

☆並ぶ場所やルールが分かるような環境を工夫したり、指さしなどの動作で具体的に示したりすると、ルール等を意識しやすくなります。

### たとえば…

#### ◎待つ場所が分かるように

次の番の人が入る枠を書いたり、椅子を並べたりするなどの環境を工夫しましょう。「この列の最後ね」と列の先頭から最後を指さし、全体に目を向けさせることも効果的です。

#### ◎待っていたら体験をする

一人で待つということはとても難しいことです。先生も一緒に待ちながら、話をしたり、待ってられることをほめたりして、順番を待つことの成功体験をすることで、徐々に待てる時間が長くなっていきます。

#### ◎指示しなくても分かる環境を

入ってはいけない場所に「×」「怒り顔マーク」などを付ける、自分のロッカーやくつ箱は分かりやすい目印にするなど、先生が言葉をかけなくとも分かるような工夫をしましょう。活動の説明などは一つの行動ごとに短く区切ることで注意がそれにくくなります。





# 遊 び や 生 活 の 中 で (うごき)



いすに座っていてもすぐに姿勢が崩れてしまう



つまづいたりぶつかったりすることが多い



どことなく不器用な感じ動きをまねするのが苦手

利き手がはっきりしない

## こんなことで困っているがもしれません

- 手足を動かすタイミングが合わない。(交互に動かせない、力の入れ具合が分からない)
- 身体の動き(姿勢の変化)に合わせて視線が動いてしまう。
- 自分の身体がどうなっているのか感じにくい。(動きのイメージが難しい)
- 目をうまく動かさずに見たいものが見られない、見続けられない。
- 操作の順番やものの段取りがうまく組み立てられない。(形をまねしてかけない)

☆自分の身体や感覚とのつきあい方がよく分かっていないと失敗ばかりでイヤになってしまいます。全身をよく使って遊ぶ経験や小さくても「できた」と感じることをたくさんすると、自分の身体とうまくつきあえるようになります。

### たとえば…

#### ◎きちんと見ているか確かめる

両目の視線が合わなかったり、顔を傾けてものを見ている場合は、両方の目をうまく使えていないことがあります。医療機関での治療や専門機関での相談による早目の支援が有効です。

#### ◎外遊びに誘う

ブランコやシーソーなど、姿勢やバランス感覚を養う遊びに誘ってみましょう。初めは怖がっても「先生といっしょに」と安心できる雰囲気、いろいろな動きや変化を楽しむ体験をすると、「こうやればいいんだ」という発見につながります。





## ◎楽しく体を動かす

例えば、好きな動物になってトンネルをくぐったり、好きな歌を歌いながら楽器をならしたりするなど、楽しみながら自然に体を動かせるような工夫をしましょう。ハイハイの動きや指先を動かす動きなどは意識して取り入れたいものです。

## ◎小さな成功体験を

個別にかかわれる場面では、活動をスモールステップにして短くし、言葉で具体的に伝え、うまくできたことがはっきり伝わるようにしてみましょう。うまくできた体験が次への活動の意欲につながります。



## 遊 び や 生 活 の 中 で (ことば)



先生の顔をよく見るがおしゃべりはしない  
単語だけで話す



話しかけても反応しない  
発音がはっきりしない



話そうとするが  
なかなか言葉が出ない

### こんなことで困っているがもしれません

- 聞こえにくさや、耳に病気がある。
- 周りで起こっていることがわかりにくい。
- 口唇や舌をうまく動かせない。
- 自分の思いを言葉にすることができない。
- 入ってきた音がうまく処理できない。
- 言葉ともの、言葉と起こっていることがうまく結びつかない。

☆言葉を話すためにはたくさんの言葉を聞いて理解することが大切です。  
子どもの注意が向いているものが何かを観察し、たくさん語りかけてみましょう。



たとえば…

### ◎聞こえを確かめる

いろいろな場面や位置から話しかけてみましょう。決まった方向や声の高さなどで聞こえ方が違うようなら、耳や聴神経に問題がある場合があります。医療機関での治療や専門機関での訓練で解決できることもあります。



### ◎興味に合わせて

子どもが目を向けているもの、している動作をいろいろな場面で言葉にして伝えてみましょう。あいまいだった場面のとらえ方や見えているものの整理がついてきます。

### ◎刺激の少ない場所で

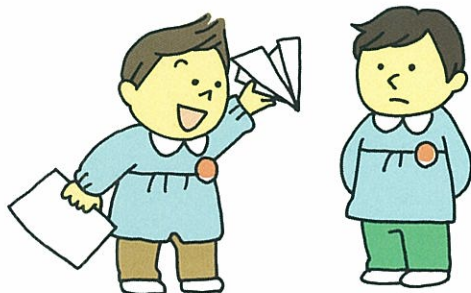
周りが静かで声が届きやすいところでは、短い文章にして周りで起こっていることの関係ややってほしいことの順番、操作の手順などをわかりやすく説明してみましょう。時間や場面の見通しが持ちやすくなります。

### ◎ゆっくり大きめの声で

ゆっくり大きめの声で話すと、注意を向けやすく模倣につながります。また繰り返しや単純な擬音語がイメージを広げ、言葉の獲得の援助になります。



## 遊んでいるときに



友達がしていることにあまり関心を示さない

したい遊びが見つからない



一つのことと遊んでいる時間が短くいろいろなところを動き回っている



## こんなことで困っているかもしれません

- いろいろな刺激（見えるもの、聞こえるもの、頭に浮かんだこと）が、同じ強さで入ってきてしまう。
- 友達の真似をすることが難しい。
- 遊びのルールがよく分からない。
- 何をしてもよいか分からず、活動に見通しがもてなくて不安になっている。

☆保育所（園）・幼稚園等は、同年代の友達と一緒に生活するところです。友達からの様々な刺激は成長につながっていきます。遊びの中で友達への関心がどのように変化したかなど、小さな成長を見つめる先生の温かい目が大切です。

### たとえば…

#### ◎気の合う友達と過ごせるようにする

大勢の集団よりも2～3人で遊ぶ方が過ごしやすいことも多いと思います。その子の状況を見ながら、小集団で遊べるスペースをつくったり、気の合う友達と一緒に過ごせる場を設定するなどの環境を整えることが大切です。人とかかわる力も、その子なりに発達していくものです。

#### ◎興味のある遊びを一緒に見つける

遊びが見つからないようであれば、興味を持ってそうな遊びに誘い一緒に遊んでみましょう。保育室で楽しく遊んだ体験が自信につながり、落ち着いて過ごせる場面が増えてくることもあります。



ちょっと気になる子に対して、保育所（園）・幼稚園等の遊びや生活の中で援助していくためには、その子どもの実態を把握することが大切です。また、その実態をもとに今後の指導の方針（個別の教育支援計画：注）を導くことが求められます。

ちょっと気になる子の援助を進める際は、まず、保護者との信頼関係を構築し、次に、以下のような観点で情報の収集をしましょう。

- ・ 生育歴、医療機関・相談機関の状況
- ・ 長所や特技、園の生活の中で夢中になって取り組むこと
- ・ 行動上の課題
- ・ 保護者の考えや願い等



ちょっと気になる子の保護者の方の多くが、子育てに対しての悩みを抱えています。まず、一番身近で保護者をサポートできる保育所(園)・幼稚園等の先生方が十分話を聞きましょう。

また、その子どもの居住地の市町村の相談体制や相談窓口についての情報を収集し、保護者に提供しましょう。

なお、通級指導教室や特別支援学校、群馬県総合教育センター「子ども教育支援センター」で発達相談を行っています。また、「幼児教育センター」では、保護者からの子育ての相談や、保育者からの保育の相談を受けています。



群馬県総合教育センター・子ども教育支援センター ☎0270-26-9200

幼児教育センター …… ☎0270-26-9221

その他 各市町村の児童家庭・障害福祉関係課、言語通級指導教室、情緒通級指導教室、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、教育事務所の特別支援教育専門相談員、児童相談所、発達障害者支援センター等で相談も行っています。

ちょっと気になる子の支援を考えていく際に、発達障害に関連するホームページがとても参考になります。特に国立特別支援教育総合研究所では、平成20年度から「発達障害教育情報センター」を設置し、最新の情報を発信しています。参考にしてください。

発達障害教育情報センター：<http://icedd.nise.go.jp/blog/>

注：個別の教育支援計画は、障害のある子どもを乳幼児期から学校卒業後までの長期にわたって支援するための計画で、学校・園が保護者、関係機関（教育、医療、福祉、保健、労働）とともに支援の目標や内容について作成するものです。詳しくは、「群馬県のホームページ、教育委員会：特別支援教育室に掲載」をご覧ください。

#### 発行者

群馬県教育委員会事務局 特別支援教育室

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1 TEL.027-226-4651

本リーフレットは、平成20年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業（文部科学省）により作成しました。